

みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 13 NO. 3

(通巻50号)

昭和61年 9月1日発行

編集・発行人 平野 馨

〒260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8311 (代表)

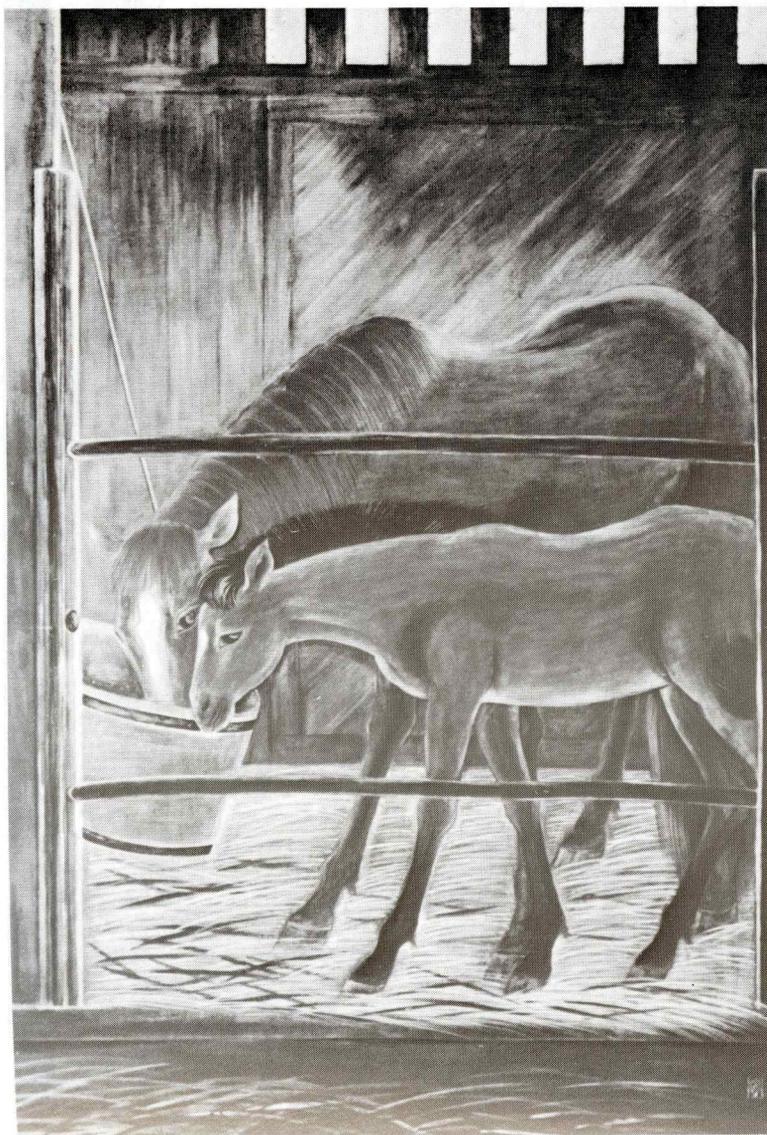
富取風堂

「母子の馬」

昭和四十一年

紙本着彩

(根岸競馬記念公苑蔵)



富取風堂の作品には、穏やかで気取りのない作者の人柄がよくあらわれている。速水御舟らと交流のあった初期の頃は、厳しい細密描写もみられたが、昭和に入つて次第に素朴な味わいの作品を発表するようになった。風景や花の他、魚や鳥などの生き物をよく描いている。市川に永く住んでいた作者の作品には、県内の風物を題材としたものが多い。

馬にも関心を持っていたようである。この作品の他、「厩舎」「仔馬」などに度々とりあげられている。近地の厩舎に取材したものであろうか。仔馬が優しい眼差しで母馬に寄り添い、暖かな雰囲気のある画面となっている。この作品は、昭和四十一年第五十一回再興院展に出品され、「文部大臣賞」を受賞した。

みる

(展覧会)

企画展

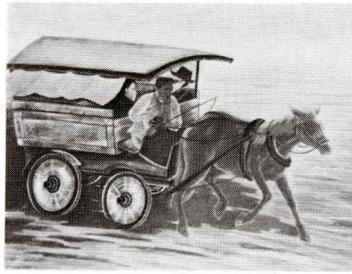
房総の美術家

シリーズ⑬

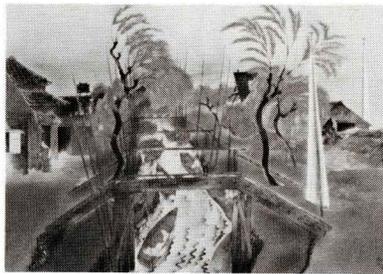
富取風堂展

'86・9・13(土)～10・12(日)

近代日本画史上の足跡を回顧



駅路(昭和36年)



葛西風景(昭和12年)

本年度で第十六回目を迎えた企画展「房総の美術家シリーズ」は永く市川市に在住し、大正・昭和の日本画壇に大きな足跡を残した富取風堂(明治二十五～昭和五十八)に焦点をあてて開催します。

富取風堂(本名次郎)

は、明治二十五年十月一日に東京日本橋に生まれました。小学校に通っていた頃から絵が好きでしたが、明治三十八年、近くにあった松本楓湖の安雅堂画塾に入門しました。同画塾は放任主義教育であったといわれますが、毎日、古名画の模写を課され、それは欠かさなかったようです。塾の人達には、後の日本画界をリードし、多くの影響を与えた今村紫紅、小茂田青樹、速水御舟等がいました。御舟は塾の様子を次の



富取風堂(明治25～昭和58)

ように述べています。「…何事にも無頓着な、自由教育主義とも云うか、門人に余り干渉しない先生であったが古画の模写だけはよくさせられた。併もそれは極く呑気なやり方で、自分の座右にある古

画の絵本を手当り次第に渡してサアこれを写せといったよくなやり方であった。…同じ模写でも平易なものど六ヶしものどそれれ塩梅して写させるのが本当だろうが、先生は至って呑気なもので私達

初心のものに、平気で六ヶしい昔の大和絵の古絵巻物などを、内もみないで、之でも写せといつて渡されたりした。コッチの腕は未熟だし渡された紛本は六ヶしいし、実際あんなに困ったことはないが、それでも幾月もかかって、曲りなりにどうにか写したものだ。今見たら彩色などとなつて

いないのだが、よくやったものだとながら驚く程だ。『楓湖先生と今村紫紅さん』『塔影』昭和九年三月号) このような徹底した模写教育で各人の才能の芽が育まれました。実際、他の塾とくらべても歴史画家の松本楓湖のところには、豊富な参考資料が取りそろえられており、この塾の最大の特徴でもありました。富取風堂もこの雰囲気の中で研鑽を積んだ後、大正三年、今村紫紅を中心に結成された赤曜会に加わりました。紫紅を始め、富

取風堂、牛田鶏村、速水御舟、小茂田青樹、岡田壺中、黒田古郷、中村岳陵、小山大月の旧楓湖門下九名の研究団体であり、赤曜会という名称は、メンバーがよく集まった大地主の吉田幸三郎の屋敷のある目黒の夕日ヶ丘からヒントを得てつけられました。彼等は目黒に住んで研究していたため、後々まで目黒派と呼ばれました。この会は、日本画の革新に情熱を燃やし、当時、最も急進的な日本画の研究会として注目されました。紫紅は「自分が日本画を壊すから君たちは建設してくれ」と他の若い仲間語っています。大正五年に紫紅が急逝し、赤曜会は解散しますが、白樺派の文芸や美術運動のごとく、日本画の世界でその役割を果たした極めて大きな存在でした。この頃から写真とか細密描写などという革新的傾向の兆しがあり、赤曜会はこうした芸術運動の意義を有するものでした。大正画壇に新風を送った赤曜会に加わった富取風堂は、出品画を描くようになり、日本美術院も再興された翌年の大正四年、第二回院



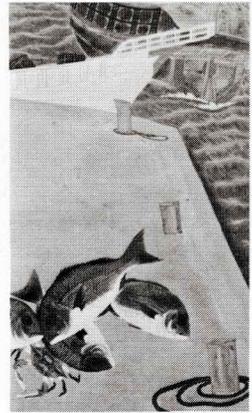
麦 秋 (昭和46年)

子の馬」が文部大臣賞を受賞
昭和四十四年には日本美術院
監事となるなど、院展の中心
的な存在として活躍し、日本
画界の発展に大きく貢献しま
した。また昭和五十一年から
は、横山大観記念館常務理事
の任にもあたっています。
本県においては、大正十三
年、市川市平田に居を構えて
以来、本県の美術の振興に尽
力、特に終戦後のいまだ世相
が混沌としていた昭和二十三



夕 (昭和35年)

回院展出品作「母
酒井三良と共に
同人に推挙され
ました。毎年院
展に出品を続け
昭和三十三年、
財団法人となつ
た日本美術院の
評議員となりま
す。昭和四十一年
には第五十一



漁港の朝 (昭和25年)

展に「河口の朝」
を出品して初入
選します。以後、
大正九年第七回
院展から大正十
二年第十回院展
に連続入選し、
大正十三年には
小林柯白、郷倉
千靱、堅山南風、
同年十一月に第
一回千葉

富取風堂の作品は、写実的
な作品、装飾性に富んだ作品
素朴な趣の作品など幅広く、
時期により変化が見られます
が、その表現においては決し
て形式にとらわれず、一貫し
て作者の意が優先され、それ
が画面に反映されています。
そして優れた日本画の技法、
卓越した構成力に裏付けられ
た富取風堂独特の深みのある
芸術が生み出されています。
作品のモチーフには身辺の風
物からとらえられたものが多
く、そこに富取風堂のリアリ
ズム精神が見受けられます。
本県の各地を歩き、風景を始
め、花、鳥、魚、馬、船などを
多数スケッチし、本画制作に
生かしています。また晩年に
おいても、いわゆる枯れた画
境ではなく、常に変わらない

年、千葉県美術会の設立に参
加。翌年十一月に第一回千葉
県美術展覧会が開催されまし
たが、その運営委員をつとめ
以後も、県展委員、常任理事、
顧問等を歴任、しばしば審査
員となるなど、指導的な立場
にありました。昭和四十二年
県文化功労者として知事から
表彰を受け、また、昭和四十
六年には勲四等瑞宝章を受章
しています。

清新な画境を持ち続けたこと
は、その穏やかな人柄の内に
秘められた芸術への情熱が並
々ならぬものであり、そこに
赤曜会時代から培われた作画
姿勢が感じとれます。
富取風堂は昭和五十八年二
月十二日、急性気管支炎のた
め逝去。享年九十歳。葬儀は
日本美術院葬として行われ、
同美術院理事長の奥村土牛が
葬儀委員長をつとめました。
今回、日本画界の重鎮であ
った富取風堂の遺作六十余点
を一堂に展覧し、その画業を
回顧します。この機会に、出
来るだけ多くの方々に、富取
風堂の新鮮な感覚に溢れた美
の世界にひたっていただきた
いと思います。

第三回美術を語る会

日時 10月5日(日)午後2時
話題 「富取風堂の人と芸
術」
話題提供者 五十嵐幹氏

斎藤 惇氏 (日本画家)

今回の展示作品数は、163点
で、全版画作品170数点の浜口
陽三の初期から今日に至る全
貌を知ることが出来ます。会
場では作品の外に版画の技法
(とりわけカラー・メゾチン
ト)や、浜口陽三の人柄を示
す言葉なども紹介しました。
8月24日開催した講演会で三
木多聞氏は「自由奔放な浜口
陽三が、一番制約の多いメゾ
チントのミクロの世界に立ち
向い独特の花を咲かせた」と
話されました。その浜口陽三
の技法については、最もふさ
わしい版画家深沢幸雄氏を迎
えて、9月14日(日)午後2時か
ら、「浜口陽三の表現方法」
を話題に、「美術を語る会」
を開催します。浜口陽三の美
しい黒、それはふるさとの黒
潮の黒だそうです。多くの方
々の御高覧をお待ちしていま
す。

特別展

「浜口陽三展」盛況

9月15日まで開催中の浜口
陽三展の会場ではメゾチント
の巨匠浜口陽三の作品を鑑賞
する人びとが、精緻で魅力的
な美の世界に息をのみ静かに
見とれています。

昭和61年度常設
収蔵作品展Ⅲ期

12/5 ~ 3/31

今年度常設収蔵作品展Ⅲ期は、日本近代美術史において大きな業績を残した本県ゆかりの作家の作品を中心に構成します。

■浅井忠コーナー

明治洋画の基礎を築き、また次代の優れた作家を指導し、明治期の美術界において重要な役割を果たした浅井忠（一八五〇〜一九二七）の作品を一堂に展覧します。油彩、水彩、素描をはじめ、日本画やテラコッタ、陶芸の作品、並びに背景資料として、スケッチブック、日記、書類類等を紹介します。



浅井忠「沢入駅」

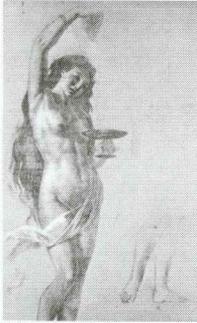
佐倉時代、東京時代、従軍時代、滞欧時代、京都時代と流れを追った構成により、浅井の多彩な活動と業績を御覧いただけます。

この他、工部美術学校教師アントニオ・フォンタネージ（一八八一〜一九〇三）、浅井に学んだ石井柏亭（一八六一〜一九〇五）、安井曾太郎（一八六一〜一九〇五）、梅原龍三郎（一八六一〜一九〇六）等の作品と現代作家のリアリズムを追求

浅井忠「農婦」



フォンタネージ「神女之図」

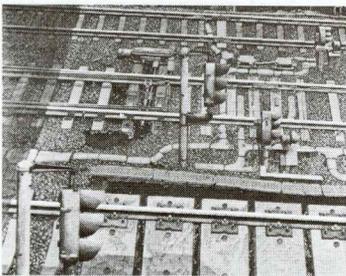


した作品を併せて展覧します。

主な展示作品

浅井忠「藁屋根」、「フォンテンプローの夕景」、「農婦」、「老母像」（以上油彩）「沢入駅」、「金州城南門外」、「虜子窩第二軍司令部」、「洋上の夕陽」（以上水彩）「松」、「梅」、「狂女」、「古城」、「風俗図（人足図）」、「風俗図（よめ入り図）」（以上日本画）「農婦像」、「羅漢像」（以上彫塑）「菓子器」、「花瓶」（以上陶芸）

アントニオ・フォンタネージ「神女之図」、都島英喜「洛北の早春」、石井柏亭「聖フ



松本秋美「aspettare」

ランチェスコ寺院」、黒田重太郎「浴後」、安井曾太郎「熱海附近」、梅原龍三郎「皇居」、松本秋美「aspettare」、齋藤捷夫「海辺の光景」、高森登志夫「絵画」、齋藤寅彦「時の跡」

■工芸

明治から大正にかけて、金工作家として、また近代工芸界のリーダーとして、工芸の地位向上に尽力し、後に続く作家たちに大きな影響を与えた香取秀真（一八七四〜一九四〇）、津田信夫（一八七五〜一九〇六）の作品を中心に、鍍金、彫金、鍛金等の金工作家の作品を展覧します。

主な展示作品

香取秀真「靈獸文大花瓶」、「鳳凰文様花瓶」、「笑獅子香香取秀真「鳩香炉」



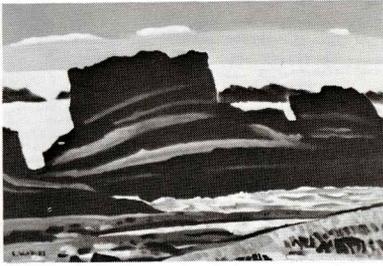
炉」、「筋入花瓶」、「鳩香炉」、津田信夫「荒鷲」、「唐獅子置物」、「水牛」、「犬」、「老子」、「兔」、香取正彦「臙銀玉鍍花瓶」、会田富康「蓋のある青銅壺」、信田洋「黄銅花いらす」、津田永寿「鳥の花器」、鈴木治平「湿原の詩」

■版画

国際的な銅版画家の巨匠、浜口陽三（一九〇九）の作品を中心に、瑛九（一九二二〜一九〇六）、深沢幸雄（一九四一）、池田満寿夫（一九四〇）等銅版画家の作品を展覧し、多様な技法と表現を御鑑賞いただけます。

主な展示作品

浜口陽三「顔」、「うさぎ」、「西瓜」、「パリの屋根」、「ピーマンのある静物」、「ポプラ」、「190と1匹」、「1/4のレモン」、「毛糸」、「くるみ」、瑛九「オペラグラス」、「あこがれ」、「ひまわり」、「愛する二人」、「かべ」、牛玖健治「2人」、「作品発芽」、「作品鏡」、「作品発祥」、深沢幸雄「神話」、「虚空に乱れる」、「神威A」、「凝視」、「青い裸像」、「掌の中の影」、池田満寿夫「飾り窓の中」、「something 1」、「シンドレラの広告」、「午後」



小堀進「逆光」

本館の収蔵作品を少しでも多くの方に知っていただくとともに美術に親しみと関心を深めていただくことを目的として実施してきた移動美術館は今年で10回を数えます。

今回は、丸山町中央公民館と浦安市中央公民館で開催します。両会場とも期間中は無休で、入場は無料です。千葉にゆかりのある作家を中心として、日本画・洋画・彫刻・工芸・版画・書の各分野にわた

第10回 千葉県移動美術館

9月26日～10月14日
10月17日～10月30日

丸山町中央公民館
浦安市中央公民館

り、41作家41点を展覧します。

〈日本画〉

島多訥郎、横尾芳月、立石春美、渡辺学、岩崎巴人、松尾敏男、高畑郁子

〈洋画〉

浅井忠、石井柏亭、梅原龍三郎、田中善之助、原勝郎、霜鳥之彦、大久保作次郎、林俊衛、中西利雄、不破章、小堀進、日野耕之祐、篠崎輝夫

〈版画〉

青風

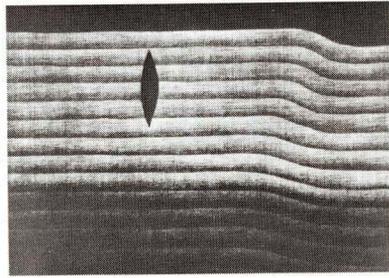
浅見喜舟、大石隆子、小暮

〈書〉

香取秀真、津田信夫、宮之原謙、土肥刀泉、香取正彦、信田洋、山本正年、津田永寿、鈴木治平、会田富康

部写真展

10月7日～10月12日
(次ページへ)



浜口陽三「ポプラ」

主な展示作品
浅井忠「京都高等工芸学校の庭」、「奈良郊外」、大下藤

次郎「紫陽花」、「青梅」、白滝幾之助「伊国アシシ」、「伊国ナポリ」、三宅克己「小諸城址」、石井柏亭「病児」、「晩春行楽図」、赤城泰舒「風景」、中西利雄「南仏風景」、「曇り日の離宮と駅」、小堀進「南欧の丘」、「ロンドンの朝」

■新収蔵作品

今年度、新しく収蔵した作品を展覧します。

※会期半ばで、日本画、水彩画、版画等の作品の展示替えを行います。



石井柏亭「晩春行楽図」

なお、都合により展示作品を変更することがあります。

いあんない・団体展

(★印、本年度千葉県芸術祭参加行事)

●第4回日中友好書道展覧会
9月2日～9月7日

●第16回新構造千葉支部展
9月9日～9月15日

●デンマーク手作りじゅうたん・タピストリー展覧会
9月9日～9月15日

●日本書道学会千葉県連合会書道展
9月17日～9月21日

●静雅書道会小中学部千葉地区展
9月17日～9月21日

●千葉県写真展
9月17日～9月28日

●千葉デザイン展
9月23日～9月28日

●千葉県勤労者美術展
9月23日～9月28日

●第24回新世紀美術協会千葉支部展
9月23日～9月28日

●昭和61年度第29回千葉市小中養護学校児童生徒作品総合展覧会
9月30日～10月5日

●第18回ファンシー洋画展
10月7日～10月12日

●第13回文化書道千葉県連合会公募展覧会
10月7日～10月12日

●二科会写真部第6回千葉支部写真展
10月7日～10月12日

●第13回文化書道千葉県連合会公募展覧会
10月7日～10月12日

●二科会写真部第6回千葉支部写真展
10月7日～10月12日

●第13回文化書道千葉県連合会公募展覧会
10月7日～10月12日

◆七宝焼入門講座

期日 9月27・28日
〈2日間〉

講師 金光淳子氏

定員 30名

申込締切 9月13日

◆日本画研修講座

期日 11月5・6・7・
11・12・13・14日
〈7日間〉

講師 松原道男氏

定員 25名

申込締切 10月22日



(60年度日本画研修講座より)

◆デッサン入門講座(3)

期日 11月6・7日
〈2日間〉

講師 五十嵐光昭氏

定員 30名

申込締切 10月23日

◆書芸研修講座(2)

期日 11月13・14日
〈2日間〉

講師 浅見錦龍氏

定員 20名

申込締切 10月30日



(60年度書芸研修講座より)

◆てん刻研修講座

期日 11月26・27・28日
〈3日間〉

講師 鈴木知秋氏

定員 30名

申込締切 11月12日

★受講希望者は、往復は

がきに、講座名、住所、

氏名、電話番号を明記

のうえ、美術館普及班

あてお申し込みくださ

い。

ごあんない・実技講座

博物館実習

昭和61年度博物館実習は8月18日(月)から8月23日(土)まで、22名の学生を迎えて行われた。

- 東洋大学 1名
- 武蔵野美術大学 1名
- 鶴見大学 1名
- 日本女子大学 2名
- 和洋女子大学 4名
- 東京都立大学 1名
- 東京学芸大学 1名
- 東京家政学院大学 2名
- 千葉大学 3名
- 聖心女子大学 1名
- 共立女子大学 1名

- 法政大学 1名
- 青山学院大学 1名
- 金沢美術工芸大学 2名

実習は、本館職員による講義や美術館活動の展覧会の企画から開催までの進め方、調査の取り方、資料の保存、資料カードの整備、作品の梱包、資料室の整備、アトリエ実技室の整備活用。また、美術館の会活動についての在り方など、幅広い内容のものであった。

実習生は、美術講演会、美術を語る会にも参加して、関心の高さを示していた。

情報資料室だよ

以前この欄で御紹介した千葉市在住の鈴木満平氏より、今年度も各種展覧会図録156冊を寄贈いただきました。当室には国をはじめ全国の公私立美術館・博物館あるいは美術団体から、多種多様な図録が交換資料または寄贈資料として送られてきます。しかし、常にユニークな展覧会を企画しているデパート主催による

展覧会図録は入手し難い場合が多いので寄贈に頼っているのが実状です。今回、鈴木氏より寄贈していただいた図録はこのデパート主催の図録が大半を占め、大変貴重な資料です。

当室には、現在まで3千752冊の図録が整理を終了しています。二階の図録コーナーは現在整理中のため、一般公開はしていませんが、御利用の方は当室係までお申し出ください。

ごあんない・団体展

(前ページから)

- 第26回白扇書道会展 10月14日～10月19日
- 第38回千葉県美術展覧会 10月25日～11月16日
- 千葉県高等学校総合芸術祭 美術・工芸・書道作品展 11月19日～11月30日
- 第31回こども県展 12月2日～12月14日
- 第9回千葉展 12月16日～12月25日
- 第23回登龍社宮坂会書初展 62年1月6日～1月11日
- 書星選抜展 1月6日～1月11日
- 千葉県大学美術連盟展 1月6日～1月11日
- はれ展 1月13日～1月18日
- 第4回明るい社会づくりポスターコンクール展覧会 1月20日～1月25日

日誌抄

- 8・16 特別展「浜口陽三展」(9月15日まで)
- 8・24 第二回美術講演会 (講師||国立国際美術館長三木多聞氏)